髙橋香樹会長担当　半紙臨書課題

（12月22日締切）出品料440円

牛橛造像記（ぎゅうけつぞうぞうき）



第四回

1、字句＝騰遊

2、形式＝半紙タテ使用。「騰遊」とタテ一行に臨書し、左余白に落款「〇〇臨」と調和を工夫して書き入れる。

3、概観＝牛橛造像記の大きな特徴のひとつに、転折があります。今回課題の「騰」の「馬」の部分の転折と、「遊」の「子」の転折では転折法が異なるように思います。「馬」の転折では、五画目の横画の収筆で一旦止め、やや上に押し上げ、充分筆を突いてから斜め右下に反らせ、再度突きます。牛橛造像記の「口・月・日・四・目」などはこの転折によることが多いと思います。それに比べて、「子」の転折では横画から一旦筆を引き離して後、左上から入筆し、筆を突いてから引き上げる。このような転折は、「子・之・又」などで見られます

4、各字のポイント

騰　「月」の一画目はやや長く。旁の一・二画の点は、左上から入筆し、左下に払う。五画目の始筆は厳しく。「馬」の四点は「月」の下部から始める珍しい形。シンニョウは、一画目は左上から入筆し、左下に引き抜く。二画目は左横から入筆し、右下に引き抜くというこれも珍しい形。三画目は上から入筆し、しっかり筆を突き、その弾力を使って引き上げ曲線とし、収筆でやはりしっかり突き払う。牛橛造像記には、シンニョウが四字ありますが皆少しずつ異なるようです。

遊

一字書課題　（12月22日締切）

誉

(1)書体自由　(2)半紙タテ
(3)落款は余白に調和を工夫し書き入れる
(4)出品料　四四〇円
(5)バーコード券の余白に「**一字書**」と記入

条幅随意参考



彌勒像一區　願牛橛　捨於分段之郷

※抜粋可。条幅は一枚目無料、二枚目から五五〇円。半紙随意部（無料）にも出せます。条幅部に出品する場合はバーコード券余白に「**条臨**」と記入。

条幅部漢字課題参考　（十二月二十二日締切）

A



髙橋香樹会長書

風揺翠雨香浮席　月送金波影入簾（王雨）

風は翠雨を揺るがして香席（こうせき）に浮かび、月は金波を送って影簾（かげれん）に入る。

今回は、久し振りに楷書でと思い書き始めました。楷書に近い行書というか、行書に近い楷書というような作となってしまいますが、やはり行書ととらえるべきでしょうね。「席」は古典では「」の形が多い。「簾」も「」の形が古典では多い。

B



鈴木静村先生書

揺　旁の崩し方、字典を参照のこと。**翠**　終画は長く伸ばし効果的に。**浮**　墨継ぎ。**席**　字幅を。**送**　之繞を伸びやかに。**金波**　渇筆線の部分、有効に活かして。**影**　墨継ぎ。旁〝〟意連に留意して。**簾**　下辺は古典では〝〟（四つの点）が多い。

訳…風は雨にぬれた青葉を吹き動かして、その香りが座席までただよい、月は美しい光を降らせて、すだれを照らしている。

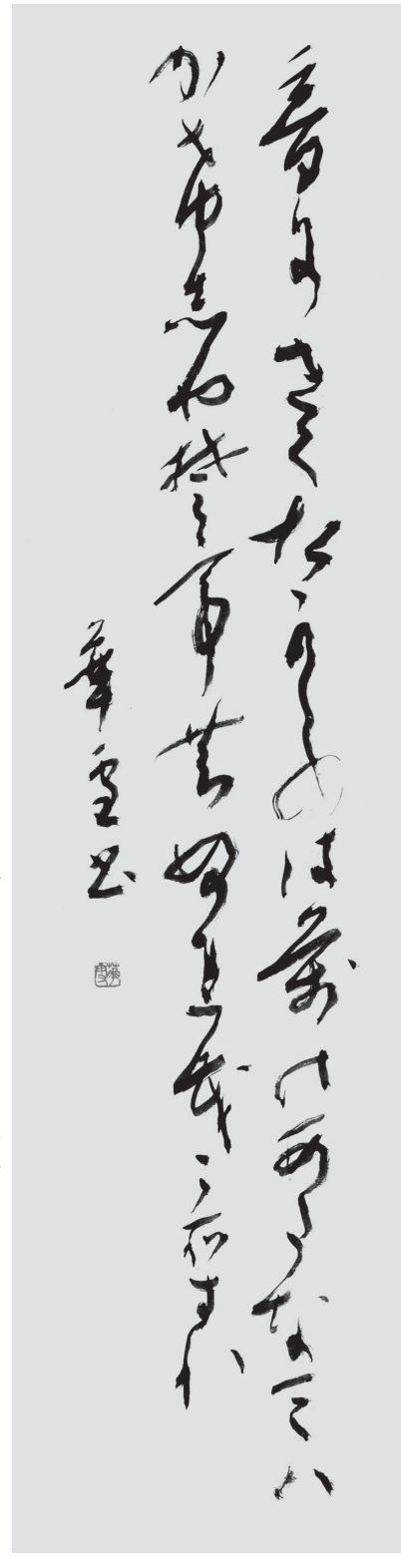
予告（一月二十二日締切）　**滅却心頭火自涼（杜荀鶴）**

◆注意　・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条漢を○で囲み（１）と記入する。）
・二枚目からの出品（バーコード券の条漢を○で囲み（　）に何枚目か数字を記入する。出品料550円）

条幅部かな課題参考　（十二月二十二日締切）

A

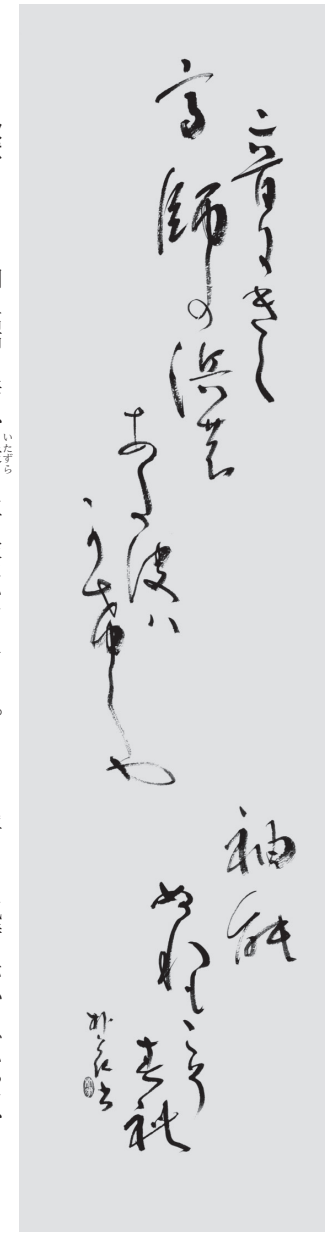
平岡華雪先生書



音に聞く高師の浜のあだ波はかけじや袖のぬれもこそすれ（祐子内親王家紀伊　百人一首）
音尓き久た可しのは萬能あ多な三八か希志や楚亭農ぬ連茂こ所すれ

B

向山朴花先生書



音尓き久高師の浜農あ多波八可希之や袖能ぬれもこ曽春禮

祐子内親王家紀伊
（ゆうしないしんのうけのきい。一宮紀伊　いちのみやきい　十一世紀後半）
平安時代院政期の女流歌人で、後朱雀天皇の皇女祐子内親王の女房。女房三十六歌仙の一人。兄である紀伊守藤原重経（素意法師）が紀伊守であったので紀伊と呼ばれました。

学び方

歌意…うわさに聞く高師の浜の、徒（いたず）に立つ波はかけませんよ。あなたの浮ついた気持ちが心に掛かって、涙で袖が濡れませんように。

百人一首から、著名な和歌です。今回は上段下段の構成にしてみました。①上段と下段に自然な流れがあるように。②書きながら常に右行との距離間（行間）と文字の位置を確かめるように。また、私のこだわりですが、固有の地名、一目で意味の伝わる漢字は、使ってみました。散らし方や文字の位置を工夫して、書く楽しさを味わって下さい。

予告（一月二十二日締切）　**おしなべて木の芽（め）も春（はる）のあさみどり松（まつ）にぞ千代（ちよ）の色（いろ）はこもれる（新古今和歌集　摂政太政大臣）**

十月号二頁条幅かな参考手本Bの活字に誤りがございました。
×日暮**れる**八→○日暮**るれ**八（は）
訂正してお詫びいたします。

◆注　意　・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条かを○で囲み（１）と記入する。）
・二枚目からの出品（バーコード券の条かを○で囲み（　）に何枚目か数字を記入する。出品料550円）

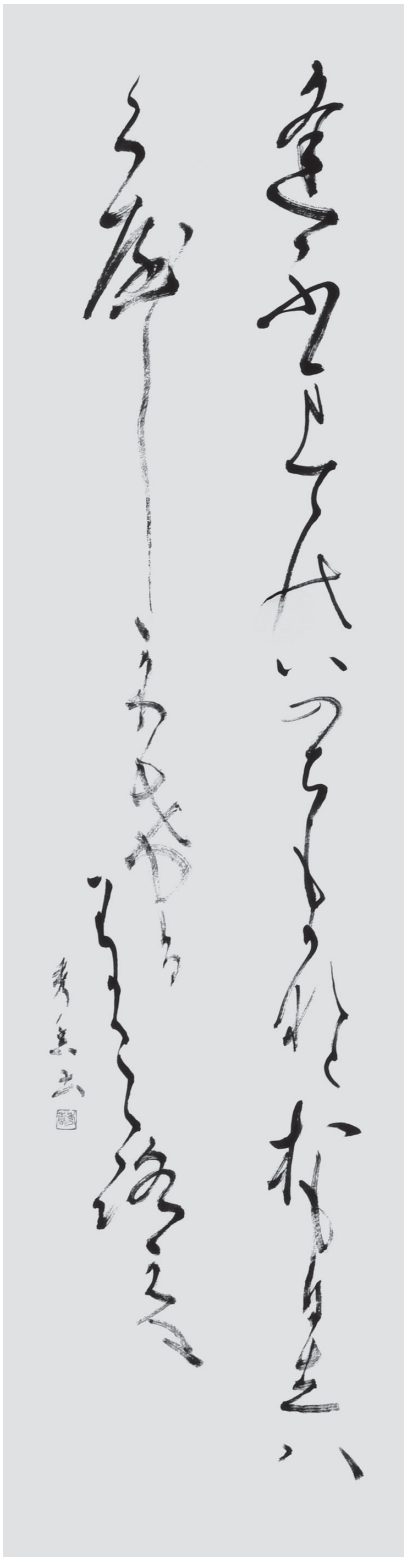
条幅部随意参考（創作部門最優秀作品）



蒼穹　勝間凛華

惟徳自成鄰（祖詠）
惟れ徳　自ずから鄰を成す

訳…徳ある人は孤立することはなく、必ず手をたずさえる隣人ができるものだ。



らくま　藤巻秀香

逢ふまでの命もがなと思ひしはくやしかりけるわが心かな（新古今和歌集　西行法師）
逢ふ万て能いのちも可那と於も日志八久屋し可利希る王可こゝ路可奈

歌意…逢うまでいい、生きていたいと思ったのは、わが心ながら何とも悔やまれることよ。

◆注 意　・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条随を〇で囲み（1）と記入する。）
・二枚目からの出品（バーコード券の条随を〇で囲み（　）に何枚目か数字を記入する。出品料550円）

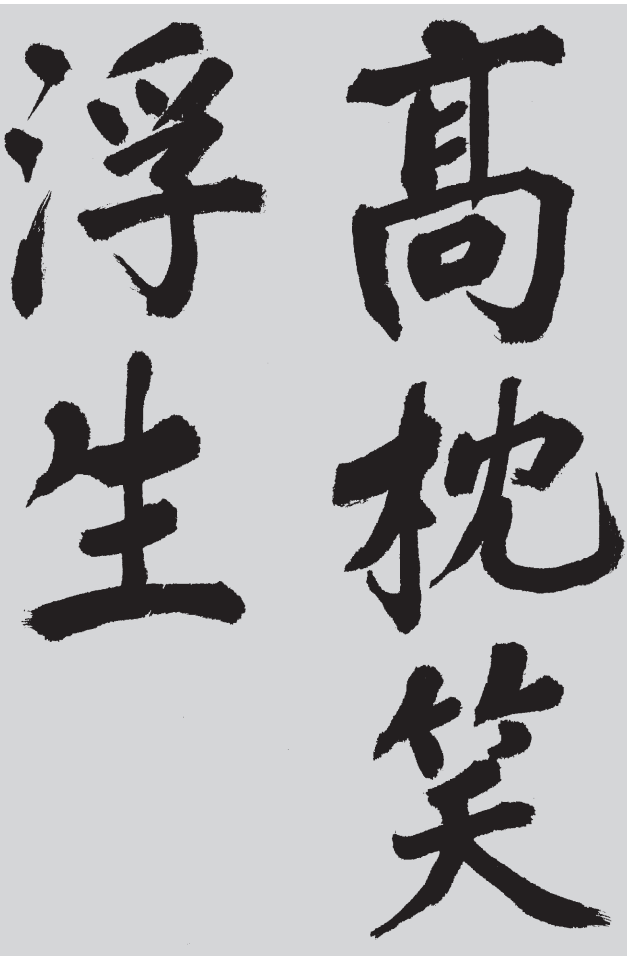
※創作部門最優秀作品は随意部参考手本として掲載します。

漢字部課題参考　（十二月二十二日締切）

平岡華雪先生書

枕を高くして浮生を笑う（杜甫）

訳…風流を楽しんで俗な人生を笑う。



（一月二十二日締切）　**履霜堅氷至（易経）**

〈**横画のそらせ**〉

「俯仰（ふぎょう）」は、横画が重なる場合、上にそらせ、下にそらせる手法をとり入れ、一字をいきいきとさせます。特に、上へのそらせがポイント。軽くすっきりと。

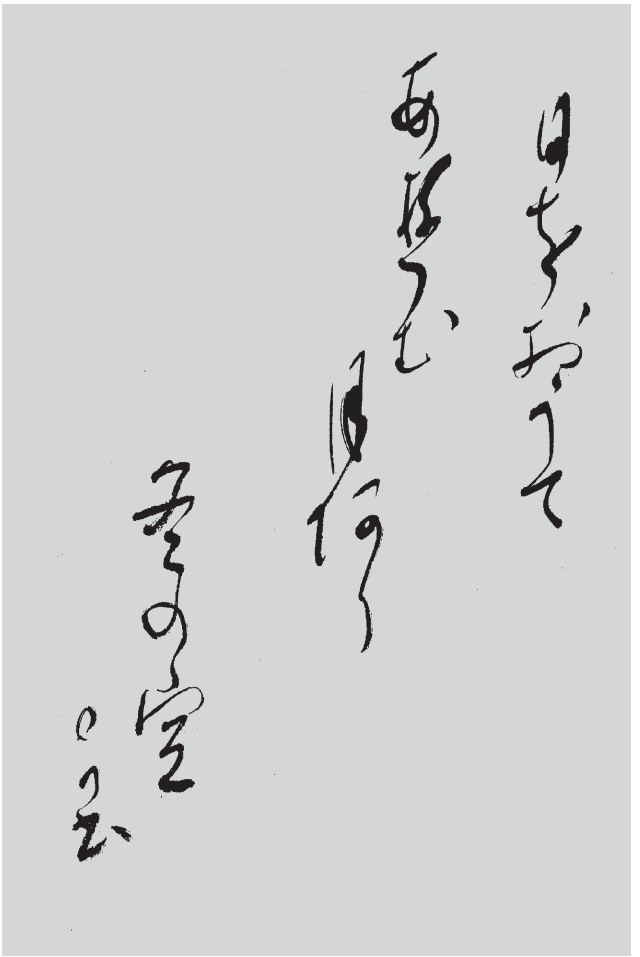


かな部課題参考　（十二月二十二日締切）

平岡華雪先生書

日を追うて歩む月あり冬の空（たかし）

日をおうてあ遊（ゆ）む月阿（あ）り冬の空



〈**「リズム」に確信をもって**〉

連綿の基礎的な用筆が含まれています。「**日**」→「**を**」、「**を**」→「**お**」、「**あ**」→「**遊**」、「**遊**」→「**む**」、受けてからタテ画へ入るリズムを体得してほしい。「おうて」、「月阿り」これもリズムに尽きます。

（一月二十二日締切）　**うめが香にのつと日の出る山路かな（芭蕉）**

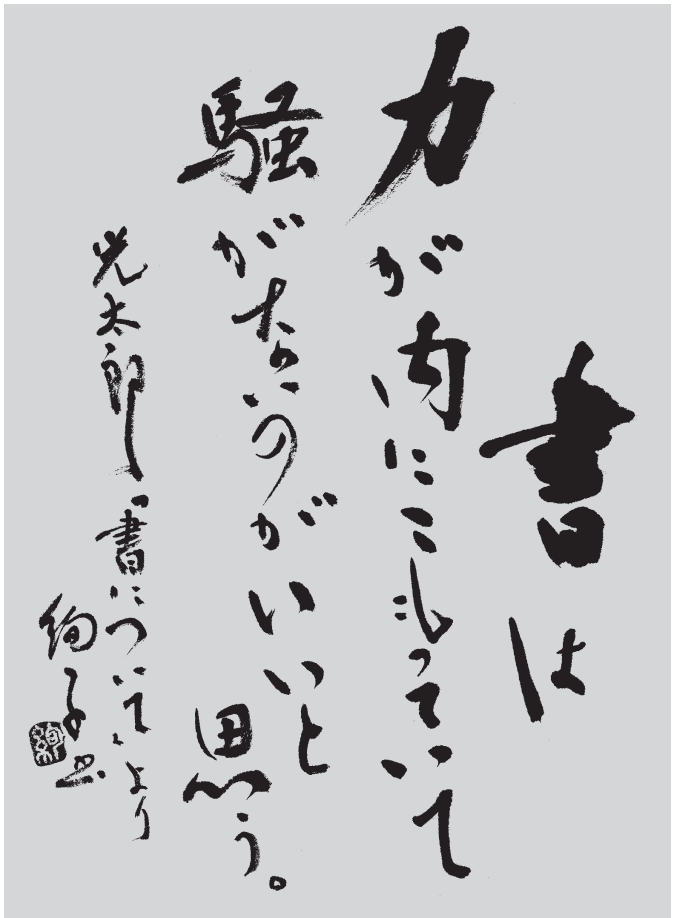
◆**注意**…はじめて出品される方は私製の紙（３×４㎝位）に①～④を記入し、作品左隅に貼付の上、出品して下さい。一般会員は無料、会員外出品料は460円。
①出品部門（例：「漢字部」「かな部」）　②支部名または都道府県名　③氏名または雅号　④新

漢字かな交じりの書課題参考（十二月二十二日締切）

宮　絢子先生書

書は力が内にこもっていて騒がないのがいいと思う。

（高村光太郎『書について』）



墨継ぎは「書」と「いいと」の二回。静かに淡々と書き進めたい。

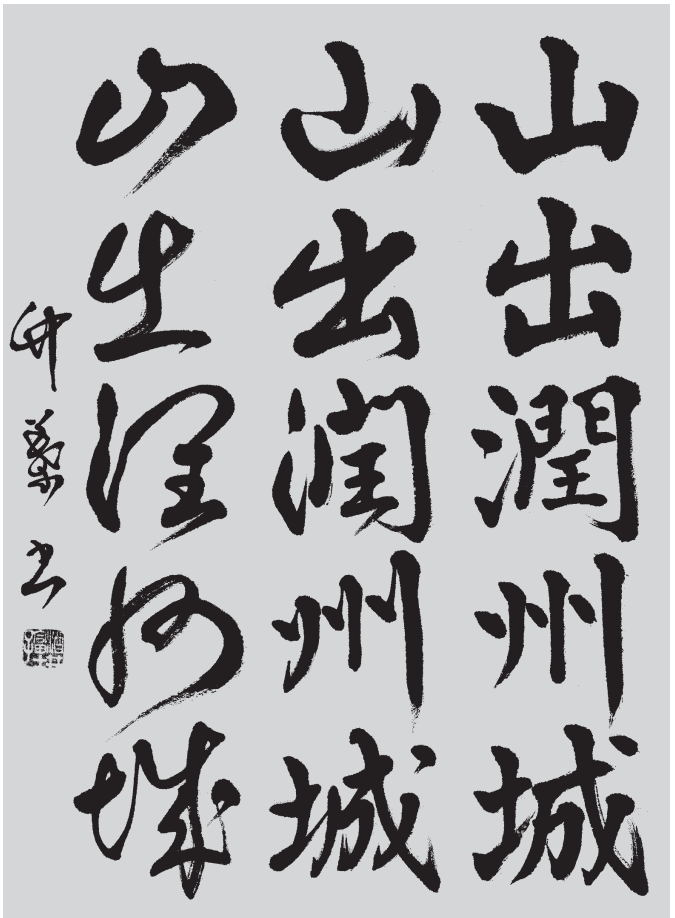
彫刻家で詩人の高村光太郎は「書」にも造詣が深く、残された書作品からは「古法帖」や「古筆」の学びの跡が分かります。著書『書について』には、筆を持つ者を立ち止まらせる文や文章があります。その一節を書いてみました。

⑴出品料550円　⑵バーコード券余白に「**漢か**」と記入

楷、行、草、三体課題参考（十二月二十二日締切）

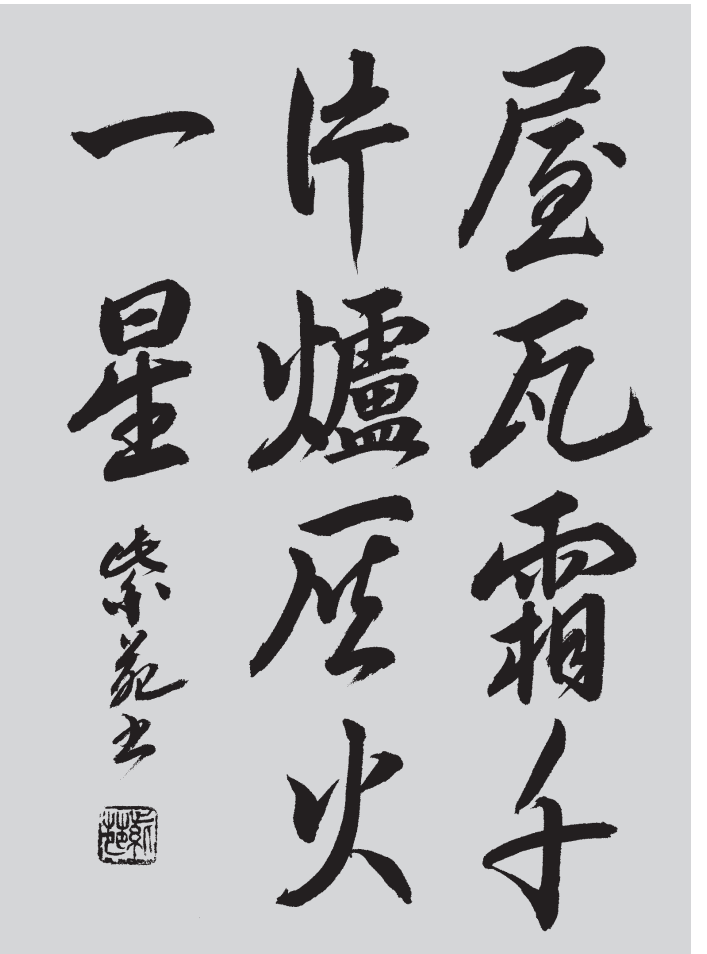
酒井竹葉先生書

山出潤州城（丁仙芝）　山は出す　潤州城



訳…山あいからは潤州の町が見えてくるのだ。

⑴随意部参考として出品してください。⑵会員外の出品料は460円。

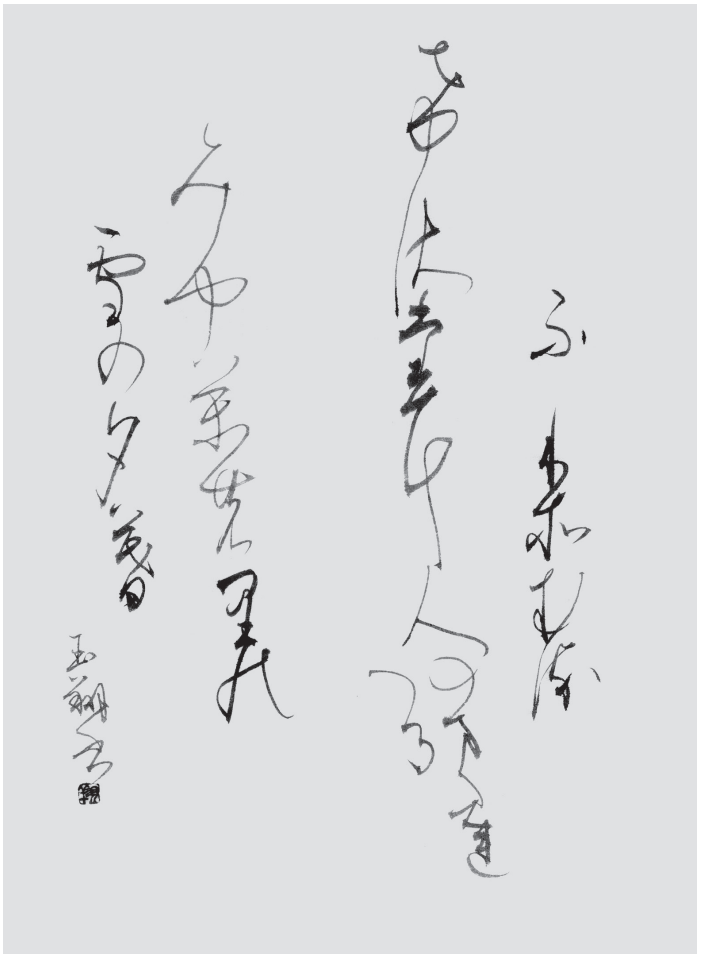


山田紫苑先生書

屋瓦霜千片　爐灰火一星（趙甌北）
屋瓦霜千片、炉灰火一星。

訳…屋根の瓦には霜がま白く積みしき炉の灰の中には星ばかりの火が一つある。

随意部参考



福田玉翔先生書

ふりそむるけさだに人のまたれつるみ山の里の雪の夕暮（新古今和歌集　寂蓮法師）
ふ利所む流希佐堂耳人の万多連つるみや萬農里能雪の夕暮

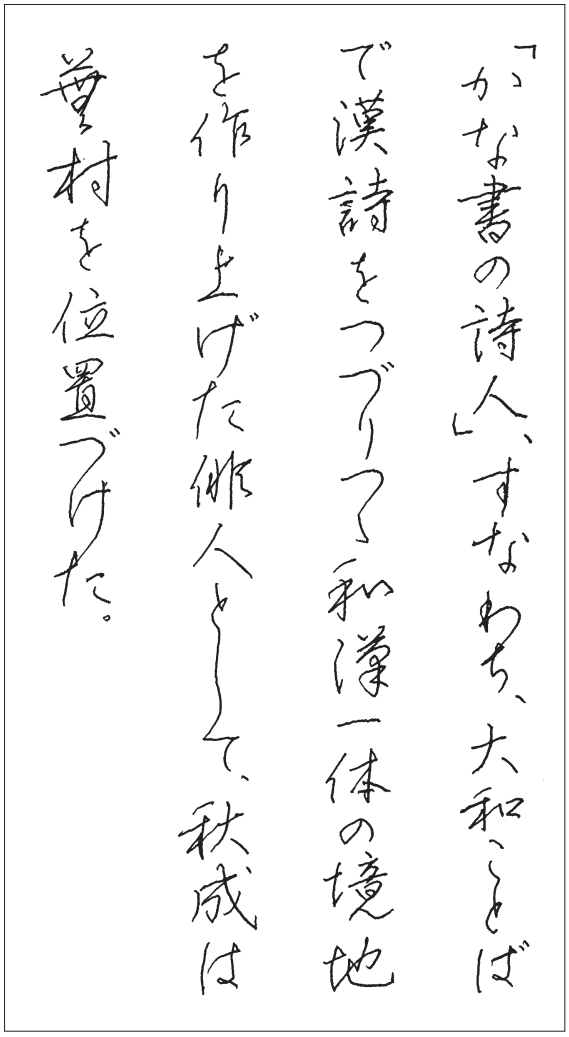
歌意…降り初めの今朝でさえ、寂しさに人の待たれた、この山里の雪の夕暮よ。

(1)随意部参考として出品してください。(2)会員外の出品料は460円。

硬筆部課題参考　（十二月二十二日締切）

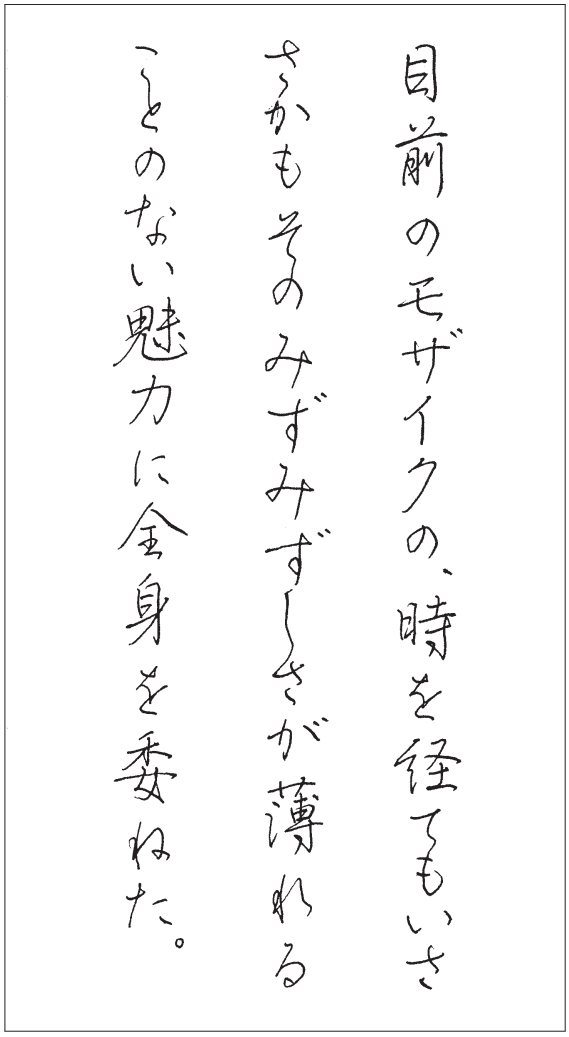
稲畑曄穂先生書

課題 1　（初段以上）



生駒紅泉先生書

課題 2　（初段格以下）



課題1（初段以上）
「かな書の詩人」、すなわち、大和ことばで漢詩をつづりつゝ和漢一体の境地を作り上げた俳人として、秋成は蕪村を位置づけた。
（『日本詩歌紀行』大岡信）

◆注意

(1) 自分の段級に合った課題を選択。
(2) ペンまたはボールペン（黒色）を使用のこと。青インクは不可。
(3) 段級欄は本人が記入（色は黒）
(4) はじめて出品される方は私製の紙（3×4 cm位に）次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
(5) 会員は無料・会員外は四六〇円

課題2（初段格以下）
目前のモザイクの、時を経てもいさかもそのみずみずしさが薄れることのない魅力に全身を委ねた。
（『ヨーロッパ美術紀行』栗津則雄）

魅（参考）（いずれも可）

研究部課題　（十二月二十日締切）

（課題）多字数

日落長沙楓樹紅　斷猿啼處暮雲空
可知昨夜鄉關夢　身在寒煙萬點中

（作者）張宸　**（題）**「楚中秋思」

（読）

日長沙に落ち楓樹紅なり。断猿啼く処暮雲の空。知る可し昨夜郷関の夢。身は寒煙万点の中に在り。

（補足）

○楚中は楚の地というに同じ。楚は湖南湖北一帯の古名。断猿はとぎれとぎれになく猿。寒煙万点は見わたすかぎり寒む寒むとしたもやがたちこめている形容。

▽注　意

(1) **半切タテ使用**　(2) **行草体**
(3) **行数、字詰め自由**
(4) **落款は「黙深書」と書き入れること。**
雅印は無用。（出品者の本名又は雅号を書き入れた作品は不可）

▽出品要項

(1) 資格―**推薦、準推薦、推薦格合格者**（漢字・随意・かなのいずれかで推薦格以上であればよい。また同人、準同人も歓迎）
(2) 締　切―十二月二十二日必着
(3) 成績発表―書莚二月号誌上
(4) 出品料＝九四〇円同封
(5) 出品方法
ア、出品は一人一点とする。
イ、出品票（私製）を作品の左下にぶら下げて貼付する。

※バーコード券は不要。
※秋季昇級試験で初めて推薦・準推薦・推薦格に合格した方も是非取り組んでください。